

板橋区医師会 70 周年記念誌 — 近年 20 年史 (1997 ~ 2017) —

病院・看護高等専修学校



病院・看護高等専修学校

板橋区医師会病院
板橋区医師会立看護高等専修学校

板橋区医師会病院 近年20年のあゆみ

板橋区医師会病院 院長
泉 裕之

板橋区医師会病院は昭和41年に許可病床数50の内科系病院として、現在、板橋区医師会館の建つ大和町に開設されました。その後、病院の前を流れる石神井川拡張のため、敷地の一部が削られることになり、同時期の高島平マンモス団地建設に伴い、昭和47年に100床の総合病院としてこの地に移転しました。当初は現在のN棟の2病棟のみでしたが、平成元年にS棟が保健センターとして竣工し、3病棟増設され、平成14年にはさらに1病棟増設されました。現在は許可病床数192となっております。板橋区医師会70周年にあたり、近年の事業について紹介させていただきます。

■ 病院機能評価

病院機能評価機構による訪問調査は平成8年から開始されました。当院は平成15年に初めて受審しました。受審の1年以上前から対策委員会を立ち上げ、月に1～2回の会議を開き、各部署が協力し、膨大なマニュアルや資料を作成しました。調査によって喫煙環境、外来の構造、診療録の問題などが明らかになりましたが、これらを改善し、認定を受けることができました。

以降、5年ごとに再審査を2回受けております。

■ 初期臨床研修

平成16年から新医師臨床研修制度が開始されました。同年から協力型臨床研修病院として日本大学医学部附属板橋病院等から研修の一部を担当し、平成17年に管理型臨床研修病院（現在は基幹型）に指定され、全国から研修医の募集を開始しました。少人数ではありますが、毎年研修医を各地に送り出し、それぞれが立派な医師として活躍しております。

■ 病児・病後児保育室開設

平成21年にお迎えサービス付き病児・病後児保育室を開設しました。これは、区議会の自民党議員団や板橋区健康生きがい部などと協議を重ね、実現したものです。私たちにとって未知の事業であり、大きな困難が予想されましたが、看護師や保育士らと共に意欲的に取り組んだこともあり、非常に順調に運用されており、年間の利用は1,200～1,300であり、稼働率は90%前後です。「お迎えサービス」が目新しいこともあり、開設当日にはNHK「おはよう日本」で、全国に生中継されました。

■ 耐震補強工事

病院 N 棟は昭和 47 年の建築であり、現在の耐震基準を満たしておりませんでした。また、空調や水回りの不具合も目立つようになりました。これらについて運営委員会などで協議した結果、平成 20 年に耐震補強工事および改修工事を進める方針が承認され、翌年に耐震診断を行いました。工事には多額の費用が必要となりますが、当時の杉田尚史会長をはじめとする医師会執行部の尽力により東京都の平成 22 年度医療施設耐震化緊急対策事業補助金を獲得することができました。平成 23 年 2 月から工事が開始されました。開始から 3 週間ほどで、東日本大震災を経験し、この事業の重要性が早々と再認識されました。N 棟全体を耐震補強した上で、老朽化した空調や水回りも含めて改修しました。病室は明るくなり、手術室の機能も一新されました。平成 24 年 3 月に完成し、開院 45 周年を兼ねてお披露目の祝賀会を開催していただきました。

■ 医学部実習

平成 25 年から日本大学医学部の実習を担当しています。100 人前後の医学部 5 年生全員が、1 週間の「地域中核病院」の実習を行っております。6 年生の選択実習も受け持っております。各診療科の医師たちが熱心に指導にあたっており、学生たちからの評判も上々です。平成 27 年からは帝京大学医学部の実習の一部も担当しております。

■ 電子カルテ導入

平成 25 年に画像保存通信システム

(PACS) を導入し、フィルムレス化を行いました。各外来および病棟さらには医師会館にも高精度のモニターが設置され、フィルムを現像することなく、画像診断ができるようになりました。

平成 26 年から電子カルテの稼働を開始しました。これによりの確な診療録管理、患者情報の一元化、情報共有が可能となり、カルテスペースの縮小、請求漏れの減少、カルテ運搬業務・レセプト業務の軽減につながりました。当初は、患者さんの待ち時間が却って長くなることもありましたが、現在では会計待ち時間も大幅に短縮されました。

■ 最新の医療機器

より充実した医療を提供するために放射線撮影装置など、機材の更新を積極的に行っております。平成 21 年には MRI 装置を更新しました。従来は 0.5T (テスラ) の装置でしたが、1.5T の装置を採用しました。従来の乳房撮影装置に加えて、平成 24 年に東京都の補助金を得て、健診センターにデジタル乳房撮影装置を設置しました。これにより、さらに精度が高く、また効率化され、乳がん検診の撮影数は都内でもトップクラスとなりました。もちろん画像もトップクラスであると自負しております。平成 28 年に一般撮影にデジタルラジオグラフィ、平成 29 年には拡大内視鏡を導入しました。

■ 名誉院長叙勲

長年に渡り当院に貢献されている勝呂長名誉院長が平成 26 年に瑞宝双光章を受章され、パレスホテルで盛大な祝賀会が開催

されました。平成28年には医師会病院および看護高等専修学校の50周年祝賀会が同ホテルで開催され、大変に多くのご来賓のご臨席を賜りました。

■ これからの展望

現在、板橋区医師会病院は7対1看護基準の急性期型病院として運営されていますが、地域医療構想が進められている中、今後のあり方を検討する必要があります。ま

た、S棟は平成元年に竣工し、不具合が多く見られるようになっております。これについても今後改修を進める必要があります。本来であれば、新病院建築を検討すべきなのでしょうが、現在の病院の置かれた状況を見極め、慎重に検討することが重要であると考えます。私たちは、今後も地域に信頼される病院を大切に運営していきたいと思っております。

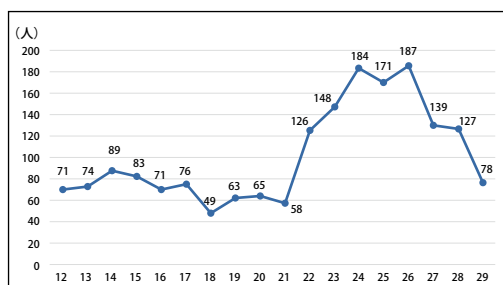


板橋区医師会病院

板橋区医師会立看護高等専修学校 20年の歴史

板橋区医師会立看護高等専修学校 校務主任
多比良 清

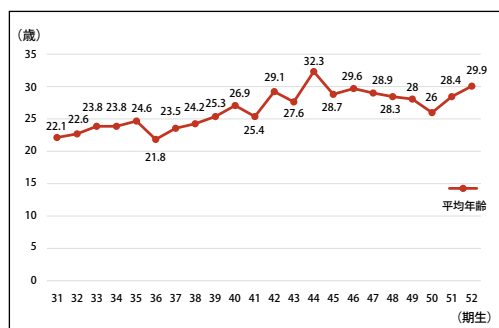
板橋区医師会立看護高等専修学校の応募者数は、平成21年度までは100名未満でしたが、平成22年度より100名以上が7年間持続していました。



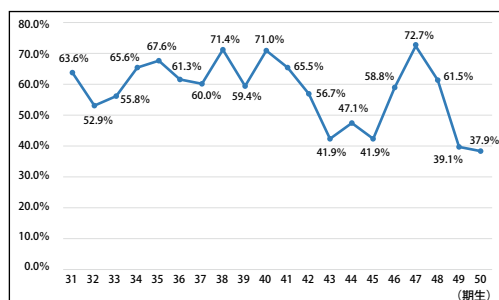
応募者の推移 (H12～29年度)

以前は10から20歳代の高校新卒者が中心でしたが、最近では20から30歳代の社会人経験者が増加し、高校新卒者は平均15%程となっています。入学時の平均年齢は、最近20年で22歳から29歳となっています。卒業後の進学率は低下傾向となっています。これは学生の平均年齢が高い程顕著になります。

最近20年間、資格試験の合格率は100%です。准看護師資格取得後に就職する者は、板橋区内の病院やクリニックへの勤務が多く、地域密着型の学校であると言えます。



入学生の平均年齢 (H8～29年度)



進学率の推移 (H10～28年度)

開校以来、実習先に恵まれ、多くの会員の先生方より講義をしていただき支えられ、他校が閉校していく中、50数年の長きにわたり約1,700名と多くの卒業生を輩出でき、感謝しています。実習場所として、板橋区医師会病院・愛誠病院・荘病院があり、すべて板橋区内にあり学校や職場から近く、勉強に専念できる環境が整っています。

多くの卒業生が板橋区内に就職しており、
後輩の指導にも尽力してくれています。

その精神が受け継がれ、良い循環が生まれ
ています。

校長、校務主任、教務主任（近年20年）

（敬称略）

年 度	校 長	校務主任	教務主任
H 9 (1997) H 10 (1998)	青木恒春 H9 (1997) 年 4月～ H11 (1999) 年 3月	野口 晟 H9 (1997) 年 4月～ H11 (1999) 年 3月	三輪明代 H4 (1992) 年 4月～ H15 (2003) 年 3月
H 11 (1999) H 12 (2000) H 13 (2001) H 14 (2002)	野口 晟 H11 (1999) 年 4月～ H15 (2003) 年 3月	都築恵丈 H11 (1999) 年 4月～ H15 (2003) 年 3月	
H 15 (2003) H 16 (2004) H 17 (2005) H 18 (2006) H 19 (2007) H 20 (2008) H 21 (2009) H 22 (2010)	杉田尚史 H15 (2003) 年 4月～ H23 (2011) 年 3月	岡田信良 H15 (2003) 年 4月～ H19 (2007) 年 3月	
H 23 (2011) H 24 (2012) H 25 (2013) H 26 (2014)		天木 聡 H19 (2007) 年 4月～ H23 (2011) 年 3月	高野恵美 H22 (2010) 年 4月～ 現在
H 27 (2015) H 28 (2016) H 29 (2017)	天木 聡 H23 (2011) 年 4月～ H27 (2015) 年 6月	多比良清 H23 (2011) 年 4月～ 現在	
	水野重樹 H27 (2015) 年 7月～ 現在		



授業風景



授業風景



実習風景